二年ぶりのイギリス館コンサートの様子をお伝えしたくて、Strum は一カ月お待たせしてしまいました。その間に季節は移り、まさに芸術の秋。熱い紅茶を片手にヴァイオリンを聴きながら窓の外に目をやると、枯れ葉がひとひら舞い落ちる…そんな優雅な時間を味わいたいものですが…。 久しぶりに帰国した伊都さんは、コンサートの準備に大わらわです。















## 近況報告

ビザ申請のため 10 月初旬に帰国し、久しぶりの日本の秋、食欲の秋を楽しんでいます。

皆が夏休みを取る 7 月~ 9 月が音楽家にとっては腕の振るい時、夏の音楽祭やイベントに夏期講習など、ヨーロッパを飛び回ることになります。今年のメインはルーマニア、2 週間にわたりルーマニア各地で演奏をしてきました。今年の 12 月のリサイタルでも演奏予定のルーマニア出身の天才ヴァイオリニストで作曲家、ジョルジュ・エネスコが、ルーマニア王室の夏の避暑地の宮殿内、毎夜のように演奏したという超ゴージャスなホールで弾いたり、標高 2000 メートル付近の山小屋で演奏したりと今年は海ではなく山を満喫した夏となりました。

9月には新しいコンサートの形として、観客参加型の絵と音楽のコラボレーションイベントを行ったり、発達障害の子供たちへの音楽的アプローチイベントに参加したり、また時間が取れず今までお預けになっていたロンドン屈指の高級エリアにある教会でのソロコンサート、そしてこの10月には2年ぶりにWiener Windのコンサートで演奏できたこと、ともかく弾くことが大好きな私にはとても嬉しい日々が続いています。コンサートはたくさんの方にご来場いただき、みなさんの応援に感謝の気持ちでいっぱいです。

今年のリサイタルは 12月 22日になります。大好きなブラームスのソナタ 1番など楽しんでいただけるプログラムですので、聴いて頂くことができましたら幸いです。

【伊都】

## Wiener Wind ~秋の夜、ヨーロッパの風に吹かれて~

10月25日、季節先取りの北風に吹かれて、煌々と十三夜の月が照らす山手の丘、イギリス館は満席のお客様を迎えました。

「2年ぶりのイギリス館コンサートなので気合いを入れました」と伊都さん、 1曲目からバルトークの難曲「シャコンヌ」を無伴奏で披露。

また、メレディスの詩「揚げひばり」、ヴェルレーヌの詩「月の光」、土井晩翠の詩「荒城の月」が配られ、それぞれの詩にインスピレーションを受けて作曲した、ウィリアムズ、ドビュッシー、滝廉太郎の曲が演奏されました。詩を見ながら曲を聴くことでイメージがより広がることを実感。とても良い試みでした。

今回のピアニストは一昨年のリサイタルで共演した加賀都喜乃さん。ロンドンで出会った「トッキー」とは美味しいものを食べに行くお仲間だそうです。

十三夜に合わせて秋を感じる曲、また、現代曲ありモーツァルトあり、いろい ろなタイプの曲や「気合い」の難曲も多く、楽しめる選曲でした。

目をつぶると、ひばりが舞い、妖精が踊り、太鼓が響き、月が浮かぶ… 伊都さんのヴァイオリンから生まれる表現の豊かさは、彼女ならではの魅力です。 こちらも一緒に緊張したり、ゆったりしたり、うきうきしたり、生のコンサート ならではのシンパシーを感じました。

外に出れば、冷えた空気にドビュッシー「月の光」がまさにぴったりの夜、 心充たされて家路につきました。



## 本牧 Golden Cup「POEMDION」

昨年春、本牧にある伝説のクラブ「ゴールデンカップ」で行われた、伊都さんと 詩人中村剛彦さん、鍵盤楽器奏者中村新史さんとのコラボが再び実現! 他では聴くことのできない異色のセッションです。タイトルは「Poemdion に 加納伊都がさらわれちゃった」。さて、どんな内容なのか?! 気になりますね。

2015年 11月 7日(土) 19:00~演奏

ヴァイオリン:加納伊都 朗読: 中村剛彦

ピアノ&アコーディオン:中村新史

チャージ:投げ銭制

ゴールデンカップ 横浜市中区本牧 1 - 46 045-623-9353 goldencup.jp 加納伊都ホームページにチラシがアップされています



第 13 回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

2015 年 12 月 22 日(火) 18:30 開場 19:00 開演 横浜みなとみらいホール 小ホール

クリスマスウィーク恒例のリサイタル。今年も祝日の前夜で足を運びやすい日程です。 弾かなければ、聴かなければ、一年が終わらない! 間もなくご案内が届きます。

い日程です。きます。

作品 No.24

2009 年 オーストリア ドイツ合作 DVD Classic Collection 「ピアノマニア」

調律師が主役のドキュメンタリー映画



あらすじ

スタンウェイ社の技術主任である調律師シュテファン・クニュップファーは、バッハの「フーガの技法」を録音することになったピアニスト、ピエール=ロラン・エマールの難しい要求に応えながら、さまざまな手段を講じて1年間かけてピアノを調整していく。スポットライトを浴びるピアニストではなく、彼らを影で支える調律師の存在に光を当てる異色ドキュメンタリー。

見どころ

ドキュメンタリーとは言え、何人もの有名ピアニストの演奏とともに、ウィーンの街の路面 電車や、宮殿、ライトアップされた建物など「見たことある!」景色がアーティスティックに 描かれ、映画としてもなかなか美しい。ヨーロッパ各地の映画祭で様々な賞を取ったとか。 優れた裏方、職人の存在が、名演奏を支えていることがよくわかる。

感想

伊都さんの12月のコンサートのピアノもスタンウェイ。同じスタンウェイでもそれぞれ違う個性があることを知った。多くのピアノの中から幅広い音が出せると選ばれた「245番」のピアノ。曲によってオルガンの音やチェンバロの音を1台のピアノで表現するという難題にも応える技術は、まさにマニアック。究極の響きを求めるピアニストと調律師の共同作業は、退屈かも?と疑った予想を裏切り、面白かった。それにしても、この人達の耳の良さ、どうなってるの?!

\*DVD は TSUTAYA の店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介しています

編集後記 久しぶりに元気な伊都さんにお会いできてホッとひと安心。ヴァイオリン一丁持って女一人異国の地で生活するのは、並大抵なことではないでしょう、と思う母心?/気合いを入れた難曲は相変わらずの超絶技巧。よくもまぁあんなに速く指が動かせるもんだと感心します。/イギリス館は横浜市の外郭団体が運営しているので、ホール利用も格安ですが、その代わり、守らなければならない規定がいろいろとあります。定員や、時間や、後のお掃除などなど。/それでもあの山手西洋館の雰囲気は他にはない魅力。利用料を押さえられる分、リーズナブルな座席料で、飲み物やお菓子も提供でき、アットホームなコンサートが実現できます。/多少の赤字は出るものの、後援会としてはずっと続けたいコンサートです。〈ゆ〉

発行:加納伊都後援会TRAUBEN 〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台 15 TEL: 045-622-6780 FAX: 045-621-6423 Email: trauben@itokanoh.com Homepage: itokanoh.com